

歴史は未来の羅針盤

# 温故知新

これまで刊行しました、『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」、第二巻「中世編」、第五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」、第八巻「史料編」は、教育委員会や各公民館などにおいて、一冊四、〇〇〇円で好評販売中です。ぜひともお買い求めください。

## 日野文庫の蔵書

役場に残されていた日野文庫の図書目録には、二五〇〇件余りの図書が記載されています。何冊もある辞書や叢書も一件として記されていますので、実際の蔵書数はもっと多かったですと考えられます。図書には「日野文庫」という蔵書印が押されています。

蔵書は購入されたものが多かったようですが、寄託や寄贈を受けたものもあつたようです。日野文庫の目録には寄贈図書は寄贈した人の名前が記録されていて、中には日野商人として著名な商家や寺院、教育者などの名前が見られます。このような記録から、日野文庫は地元日野の人々に支えられて運営された地域に根づいた施設だったことがわかります。



▲開館当時の日野文庫

町史編さん室では、『近江日野の歴史』を編さんするため、古文書調査・民俗調査・地名水利調査をはじめ、さまざまな調査を、皆さんのご協力のもとで進めています。今回は、調査した史料のなかから日野文庫についてご紹介します。

## 日野文庫の設立

日野文庫とは、明治三十九（一九〇六）年に大窪に設立された図

書館です。施設の概要については「日野文庫要覧」に詳しく記されています。この史料に書かれている内容から日野文庫はどのような施設だったのかとどっぴいいきます。

日野文庫の設立は、明治三十五年に蒲生郡教育会が八幡と日野に図書館設立を計画し、明治三十七年に日露戦争終了の記念事業として計画を進めたことに始まります。

文庫がおかれたのは大窪塗師町（現・双六町）にあつた寺院が移転して当時利用されていなかった場所です。その管理者から蒲生郡教育会へ土地などが寄付され、建物の改築がなされました。また、建物一棟の寄付を受け、そこが事務員住宅となりました。準備段階から広く寄付を募り、図書の寄贈・寄託を呼びかけたようです。そのような地元の協力もあり、明治三十九年十月三十日に開庫式が行われました。

日野文庫の設立時に「蒲生郡教

育会日野文庫規則」が定められ、施設の概要や利用規則、図書寄贈の手続き方法など、実際の利用方法が規定されています。また、開館当初の文庫長は正野玄三氏で、その他の文庫役員には、日野町の住民が名を連ねていました。実際の運営は地元住民の力によるところが大きかったのではないかと思います。

その後、蒲生郡の郡立文庫となりますが、大正十一（一九二二）年三月にいったん廃館となりました。しかし建物や図書など一切のものは蒲生郡教育会へ無償譲与され、同年十一月二十一日、日野文庫は蒲生郡教育会の運営する施設として再開します。

日野文庫がいつまで運営されていたか、正確な時期はわかりませんが、運営されなくなった日野文庫の蔵書や図書目録などの記録は、現在も日野町で保管されています。



▲日野文庫の蔵書